



令和2年度 【1月号】
上之郷中学校だより

《学校の教育目標》
自ら求め鍛え合う



【特集】 合唱祭

合唱祭 全校合唱

プロの演奏家の心を震わせた合唱祭

ひたむきな姿に感動し、涙が止まりませんでした。

本当に皆様の歌が素晴らしく、3度目の訪問でしたが回数を重ねるたびに皆様の歌が変化していき、どんどん歌、音楽に対する想いが大きくなっていくこと、そして、一人の観客として皆様のひたむきに合唱に向かう姿に感動し、涙が止まりませんでした。

音楽を聞いてあそこまで泣いたのは初めてでした。妻と一緒に帰りの車の中でも思い出して泣いていました。

音楽担当先生はじめ、学校全体の熱心で温かい指導を強く感じました。自分も演奏家としてまだまだだ。負けていけない

という気持ちです。本当に、大きな感動をありがとうございました。

大変寒くなってきましたが、皆様どうかお身体にお気をつけて、健やかに過ごしてください。

またお会い出来る日を心より楽しみにしております。

びわ湖ホールアンサンブル 古屋様より



クラスの合唱では、今までで最高の合唱になりました。どのパートもしっかりと声が出ていて強弱や声の質もとても良く、歌っていて気持ちよかったです。全校合唱では、特に最後の「tomorrow」が体育館全体に響き渡る合唱になり、本当に震え、涙が出そうになるくらい感動しました。

生徒の感想から

学年合唱(3年生)

【特集】 合唱祭

体育館に響く 聴衆の心を震わせる歌声

最後の曲「tomorrow」が終わった瞬間、会場は何とも言えない空気に包まれていました。

マスクを着用し、ソーシャルディスタンスを保たなければなりません。でも、音量を大きくして歌声を合わせなければなりません。ただでも、この人数で音を合わせるためには、一人一人が確実に正しい音を出し、心を合わせなければならぬのに…。

そもそも、合唱祭自体本当にできるのだろうか？

この条件の中、思うように進まない練習、自分たちが納得できる歌声にならない日々…。どれだけ、彼らはこの日を迎えるまでの間、苦しんできたことか。

そんな背景に押しつぶされず、ひたむきに歌いきった生徒たち。まさに、彼らが当初描いていた「聴衆の心を震わせる歌声」が届けられた瞬間がそこにありました。

「やりきった」達成感がものすごくありました。

お寄せいただいた感想から

生徒の感想

- 私は「やりきった！」という達成感がものすごくありました。授業や練習で工夫してきたポイントをしっかり意識することができたし、大きな声を出して歌えました。
- クラス曲では、今までの練習の成果を全て出すことができたし、一体感が生まれてとても良い合唱になりました。
- いざ歌ってみると、1人増えたり減ったりするだけで、声の大きさや響きがこんなにも変わってくるんだなと思いました。責任をもって歌っている1人として、音程も声も出し、がんばれました。

ご参観いただいた皆様からの感想

- 始めに歌を聴いたとき正直感動しました。少人数なのに体育館に声が響き、鳥肌が立ちました。全校で歌ったときは、涙が出るほどでした。とてもすてきな合唱でした。そして、自分たちが上中生だった頃のことを思い出しました。
- 今年度は、いろいろな行事がなくなってしまう中、合唱祭を開催してくださり、ありがとうございます。小規模校とはいえ、行事を行ってよいものかどうか先生方も大変迷われたことと思います。子どもたちの歌声は、コロナの状況を忘れさせてくれるような美しく、ほっとさせてくれるものでした。

- 少ない練習だったと思いますが、とても良い合唱でした。コロナ禍ですが、自分たちでできることを考え、行動ができる子どもたちは、すごいと思いました。このことが大きく成長できたのだと思います。
- 生徒一人一人が真剣に取り組んでいる姿は感動的です。全校合唱は、本当に涙があふれました。
- マスクをつけての合唱はとてもストレスになったと思いますが、よく頑張ったと思います。子どもたちからの「去年と同じ形で合唱がしたい」という言葉から、子どもたちがどれだけ合唱を大切にしているかが伝わり感動しました。

すでに例年並みに

2学期末の段階で遅れはあとわずか

左表に示す通り、授業時数に限って見ると、2学期末現在で、一昨年度の授業時数にすべての教科が追いつくためには、15～25時間(4日間程度)が必要となります。これは、冬休みを3日間短縮してスタートすることで、ほぼ例年並みに追いつけることを意味しています。また、授業の進度は、6月の分散登校期間に未履修部分の学習をしていた分、例年に比べ遅れてはいますが、1月末までにはどの教科も例年並みの進度に追いつける見込みです。

一昨年度までは、3年生は2月中旬以降、1・2年生は、3月に入ってから、ほぼ履修内容を終え、復習を中心に授業を行っていたことから考えると、インフルエンザやコロナ等で臨時休業期間が入らない限り、3学期は比較的余裕をもって授業が進められると考えております。

	第1学年			第2学年			第3学年		
	H30	R2	差	H30	R2	差	H30	R2	差
国語	110	104	-6	104	104	0	85	78	-7
社会	86	80	-6	84	81	-3	100	104	+4
数学	109	104	-5	83	81	-2	101	104	+3
理科	82	82	0	106	106	0	100	106	+6
英語	100	104	+4	102	105	+3	102	106	+4
音楽	31	36	+5	26	31	+5	29	32	+3
美術	36	35	-1	26	26	0	27	27	0
技術	23	25	+2	20	25	+5	12	14	+2
家庭	21	25	+4	20	25	+5	13	13	0
体育	71	64	-7	74	66	-8	75	66	-9

表は、3月末まで授業のできた一昨年度(平成30年度)と本年度(令和2年度)における2学期末までの授業時数の差を示したものです。

差で、マイナスの数値は一昨年度よりも授業時数が少ないことを、プラスの数値は一昨年度よりも多く行っていることを示しています。なお、5段階評定を必要としない総合的な学習の時間・学級活動・道徳・行事の時間については、この表では省略してあります。

大きな感動をつくり出した2学期

コロナの影響で体育大会も合唱祭もできないかもしれない。そうしたら、何も残らない一年になってしまう…。

だったら、できないことを嘆くのではなく、できることをつくり出していけばいいじゃないか。こんな発想で、今までになかったことをどんどんつくり出してきた2学期。生徒たちは、生み出すことの苦しみとやり切ったときの喜びを、いつもの年よりもずっと多く味わうことができました。

体育大会も合唱祭も、大きな声を出せば出すほど盛り上がってきます。盛り上がると楽しくなってきます。楽しくなれば自然に心が開かれてきます。心が開かれてくれば、仲間の絆が深まってきます。だから、大きな感動があったのです。

まず自分がやってみること。自ら求めることが3つの資質・能力を高め、感動ある学校生活にしていく大きなポイントであるということ、実感を伴って学べた2学期でした。

2学期に得たものとは…

各学年代表の話【要約】 (終業式)

■ 話のできる人が増えた1年生

上之郷中学校では、全校で話し合う機会がとて多くあります。特に、体育大会、人権集会、合唱祭の時には、他学年を含め今まであまり話をしなかった人とたくさん話し合うことができました。そして、話のできる人がとて増えました。

こうして、学年が違っても遠慮することなく話せるようになってきたため、合唱祭の時には互いに自分の気持ちを伝え合うことができ、満足のいく合唱をつくり上げることにつながりました。

これから、もっと学校生活を楽しくするため、呼びかけに対して自分から積極的に反応することを大切に、仲間との関係をさらに深めていきたいと思ひます。

■ Breakthrough (突破) 2年生

一番大きな財産は合唱祭です。歌詞に込められた思いを伝える工夫をしてきました。練習がうまくいかず悩んだり、意見が合わなかったりしたこともありましたが、その都度、問題をみんなで話し合いながら納得のいく答えを見つけて解決をしてきました。

こうしてみんなで問題を学級目標である Breakthrough してきたからこそ、最高の合唱をつくりあげられたのだと思ひます。

また、2学期には働く人から学ぶ機会が多くあり、まず挨拶と反応を大切にしていこうとしました。まだまだ、十分とは言えませんが、これからも相手の方に心地よく感じてもらえるよう努力します。

■ 完遂

3年生

行事を成功させるためにはどうしたらいいのかを考え、みんなで工夫し、主体的に行動をしていくことで、今までになかった新しいものをどんどん生み出してきました。そして、全校に手本として示してきました。

だから、どの行事も、とても思い出に残るものばかりとなりました。

3年生ではどの行事も学級目標である「完遂」を目指し、様々な話し合いを通して、自分たちに合った楽しみ方や締めくくり方を考えてきました。その中で出た答えが、仲間を大切にすることや学級全員が自分の思いを話すことでした。これをみんなで大切にしながら取り組むことで、すべての行事が全員笑顔で、楽しく終わることができています。